

第11回がん計画推進部会 委員よりいただいた主なご意見等

No	項目	意見	発言者
1	がん予防 (一次予防)	①「喫煙率の減少」に関するパートについて、妊娠中は両親ともに健康意識高いため、ここへのアプローチは効果的だと思われるが、計画に記載する予定はないのか。 ②HPVについて、ワクチン接種の推進によって今後は罹患も減ると思うが、罹患者数の減というのも今後の計画において触れていくのか。 ③HPVワクチン接種の推進には学校保健との連携も効果的だと思うが、検討しているか。	佐川委員
2	がん医療 (拠点病院等を中心としたがん医療提供体制の充実)	「① 基本的な集学的治療提供体制の整備 イ 小児・AYA 世代のがん(P3)」 ・小児がんの医療提供体制の強化のため、引き続き、東京都小児・AYA 世代がん診療連携協議会において、症例検討会や合同の勉強会等を開催とある。在宅で支援する薬剤師も強化が必要な部分と認識している。本協議会への関わりを密にして小児・AYA 世代に対応できる病院・薬局薬剤師の人材育成、強化、維持を図る体制としたい。	松本雄介委員(事後意見)
3	がん医療 (小児・AYA世代のがん医療に特有の事項)	「(1)AYA世代がん患者に関する事項(P20)」 ・AYA支援チームの実態の把握時、チーム内に薬剤師の有無も確認してほしい。 医療機関内での人材育成を図るとともに、在宅を担う薬局薬剤師の育成への橋渡しが必要。	松本雄介委員(事後意見)
4	がん医療 (緩和ケア)	①成人を念頭に記した記載かと思うが、小児にも当てはまる部分についてはそう分かるように記載を工夫してほしい。 (事後意見:「冒頭での項目に小児がんの含まれることが分かるような記述を加えていただければと思います。代案としては、随所に出てくる「拠点病院等」という表現を「拠点病院等(小児診療病院を含む)等」とすることなども考えられるかと思いますが、それらを含め事務局でご検討いただければと思います。) ②指標について「東京都がんに関する患者調査」が度々言及されているが、ここには必ず「東京都小児がんに関する患者調査」も加筆いただきたい。 ③東京都がん診療連携協議会に関わる記載ぶりが統一されていないため、統一を図ってほしい。 都の関与(連携)が伝わる記載とするのが望ましい。 また、「検討する」で終わるのは望ましくない。	①②山下委員(事後意見含む) ③松本禎久委員
5	がんとの共生 (ライフステージ)	①入院中の生徒の教育機会の確保(単位認定の問題)について、現状・課題には記載があるが、取組の方向性に記載がないので、取組を記載してほしい。せめて都立高校の生徒だけでも、転籍せず遠隔で授業を受けることのできるよう対応してほしい。 ②「小児・AYA世代がん診療連携協議会との連携」という文言が入っている項目と入っていない項目があるため、全体的に記載ぶりを整理してほしい。 ③在宅療養支援について、「AYA世代のがん患者は～」とあるが、小児についても在宅療養支援のニーズがあることを鑑み、ここは「AYA世代のがん患者(若年がん患者)」だけではなく「小児・AYAがん患者」とするのが適切と考える。	①～③山下委員(事後意見含む)
6	がんとの共生 (就労支援)	①診断直後の離職防止のため、医療者からの声かけももちろん重要だが、SNS等で患者が情報をとれるように発信することも必要であり、計画に記載すべきでは。 ②人事労務担当者も人事異動で交代し、知識がないこともある。人事労務担当者への研修等は計画していないのか。 ③相談支援センターにおけるハローワークとの連携もあるが、ハローワーク自体でがん患者が相談しているケースも多い。ハローワークの相談員への普及啓発は検討していないのか。 ④就職活動や就労支援に関する部分に「小児がん経験者」を加筆する、また職場に関連する部分や就労支援に関する部分に内容に応じ「小児がん経験者」and/or「治療中の小児がん患者の親」について言及するなど、小児がんに関連する箇所について適切な対応を願いたい。 ⑤小児がん患者の保護者の離職について、付き添いの話が挙げられているが、病院側が付き添い原則とすることがあるのは問題である。 都内の病院においては完全看護を原則とし、付き添いは親の判断によるものとなるよう環境を整えてほしい。	①～③佐川委員 ④⑤山下委員
7	基盤の整備 (がん登録)	「利活用の推進」とあるが、都内でのがんの実態(把握)や、これからの対策として何をしていくべきかあぶり出すための検討に役立ててほしいので、ぜひ今後検討してほしい	山下委員
8	基盤の整備 (がん研究)	予算がないと研究もできない。助成を都として予算を確保して、新しいものを作ってほしい。 小児総合医療センターでもファンドの問題があると聞いている。都立病院への支援も必要。	山下委員

第11回がん計画推進部会 委員よりいただいた主なご意見等

No	項目	意見	発言者
9	基盤の整備 (学校におけるがん教育)	①内容として、成人病予防という観点を中心となっているが、こどもにもがんがあり、学校教育では小児がんについても教えるものとしてほしい。 (小児がんは不治の病でないこと、同胞としての受け入れ等) ②行政からの依頼により薬剤師が学校にてがん教育を行っている地区もあるので「健康教育推進委員会」の構成に薬剤師も必要と考える。	①山下委員 ②松本雄介委員(事後意見)
10	基盤の整備 (あらゆる世代に対する理解促進及び啓発の推進)	①他のパートから持ってきた内容ということで、重複して記載があること自体は「基盤としても各論としても重要である」というメッセージにもなりよいと思うが、「この現状・課題、取り組みの方向性、指標は、●●の△△と同じものである」といったような但し書きや注釈があった方が、読み手も混乱少なく済み、齟齬も生じづらくなると思われる。 ②患者の支援者に対する普及啓発という視点が入っていない。患者の子どもを預かる保育園、若年がん患者の支援者など。	①松本禎久委員 ②佐川委員